

『ビタミンCローション&クリームの作り方講習会』承ります



日本全国どこでも(離島は除く)出張講習いたします。『イオン導入の実演講習会』も行っております。
【予約受付中】お申し込み・お問い合わせは **TEL.0120-31-6588** へどうぞ。

I.T.O.ユーザーズミーティングのご案内

第26回 日本美容皮膚科学会

2008年8月30日(土)・31日(日)

リーガロイヤルホテル(大阪) 特別ルームにて
I.T.O.ユーザーズミーティング開催

- 企画内容●
 - ①院内化粧品製剤の作り方の実技講習
 - ②イオン導入の実技講習
 - ③最新化粧品原料の展示とビデオ講習
 - ④I.T.O.製品サンプル、DVDの無料配布
 - ⑤美容ドリンク、サプリメントのOEMご相談承り
 - ⑥少ロット化粧品のOEMご相談承り
- *内容は変わることもあります

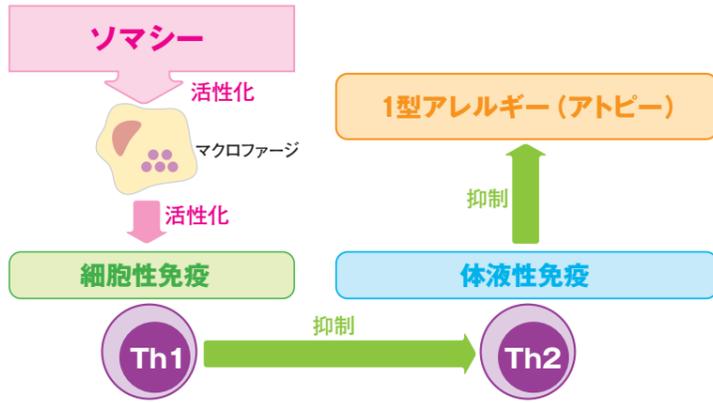
I.T.O. 本年度(2008年度)学会出展のご案内

- 8月30日(土)・31日(日)
日本美容皮膚科学会総会 大阪(リーガロイヤルホテル大阪)
- 10月5日(日)~10日(金)
国際化粧品化学者会(IFSCC) バルセロナ
- 10月11日(土)・12日(日)
日本美容外科学会総会 広島(リーガロイヤルホテル広島)
- 10月12日(日)・13日(月・祝)
日本皮膚科学会中部支部大会 名古屋(名古屋国際会議場)
- 10月18日(土)・19日(日)
日本皮膚科学会西部支部大会 福岡(ホテルニューオータニ博多)
- 11月4日(火)~7日(金)
国際化粧品展示会(IN COSME) バンコク

皮膚免疫に作用し皮膚アレルギーを改善する小麦発酵抽出物

世界初のお肌のための免疫バランス調整剤、ソマシー!!

ソマシーはマクロファージを活性化させる物質として、天然小麦に寄生するパントエア菌発酵エキス中から発見されました。研究の結果この細胞壁成分が生理活性物質と判明し、マクロファージのトゥールライクレセプター(TLR)に結合し、皮膚の免疫バランスを調整する事によりアトピーなどのI型アレルギーが改善することが明らかとなりました。



I.T.O. Provitamin
 株式会社 アイ・ティー・オー
 〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-6-7-3F
 Tel 0422-60-3434 Fax 0422-60-3435
Tel 0120-31-6588
E-mail ito@provitamin.jp

本誌内容の詳細・お問い合わせは上記へ。クリニックで活用されたい場合は追加でお送りいたします。

<http://www.provitamin.jp>

Clinic Cosmetic News
 クリニックのための化粧品情報誌
『クリ・コス・ニュース』
9月
NEWS 2008
VOLUME 04

秋こそチャンス!
 しっかりケアして
 ボディも美肌

残暑の時期から、朝夕の空気に涼やかな気配を感じる日々へ、そして本格的な秋へ。加速度をつけるように季節は進みます。タイミングを逃さずに、過酷な夏を乗り越えてきたお肌の手入れをしましょう。顔はもちろんですが、デコルテゾーンや腕や脚など…ボディスキンもこの機会にチェック&ケア。ファッションの秋こそ、全身美肌のチャンスです。

ボディスキンは大丈夫?

■ デコルテや腕、脚、背中…
 秋口に隈なくチェック! ■

秋口の美容のテーマといえば、まずは夏に受けた紫外線のダメージから肌を回復させること。毎日のように鏡の中に見るフェイス・スキンについては、夏の間から気を使ってきたことと思いますが、ボディについてはどうでしょう?

首筋から胸元、肩にかけてのいわゆるデコルテ、そして腕や手、脚や足は、顔に劣らず夏場の紫外線にさらされてきたはず。にもかかわらず、顔と同等のUV対策をしてきたかというと…心許ない方も多いのではないですか? だとしたら、日焼けや乾燥といったトラブルに見舞われていても不思議ではありません。

あるいは背中。体の中では皮脂分泌の多い部分だけに、汗や、日焼け止めなど油分を含んだ化粧品の使用によって、吹き出物などできてはいませんか? 他にも、夏場の食欲不振や栄養の偏りから、肌の張りや艶が失われている、といった症状があるかもしれません。涼風の立つ季節を迎えたら一度、全身の肌を隈なくチェックしてみましょう。

体も優しく手で洗浄

■ プロビタミンC配合の
 化粧水で保湿ケアも ■

トラブルとまでいなくても、もしも気になる所を見つけたら、早めのケアが大切。秋の間に健康な美肌を取り戻して、寒さと乾燥の季節に備えたいものです。ボディのスキン

ケアといっても基本は適切な洗浄・保湿・保護の3ステップ。顔の場合と大きく違うわけではありません。

体だからといって、ナイロンタオルなど硬いもので肌をゴシゴシするのは厳禁です。背中だけは柔らかいタオルを使ってもかまいませんが、届く範囲は手の平でなでるように洗えば十分。しっかり泡立てた石鹸やボディソープを肌ののせ、その泡で汚れを包み込んで洗い流します。洗浄後の保湿・保護は、ボディ専用商品にこだわらず顔用を使ってもOK。プロビタミンC配合のものがベストです。化粧水は全身に使い、水分と栄養を補給します。その後、衣服で被れない腕や脚、デコルテには、水でぬらした手に取りなじませて薄めた顔用の乳液やクリームを塗って保護しておけば万全です。

ストレッチマークに作用する画期的な新・化粧品原料が登場!

new moisturizer

肌の美しさが気になる秋。日焼けや乾燥に対しては、ケアの方法も確立してきていますが、ボディをチェックするとそれ以外にも気になるトラブルは出てきます。たとえばストレッチ・マーク、あるいはセルライト。これらは皮膚表面のトラブルではないため、一般的なスキンケア製品で解消するのは難しいと考えられてきました。でも実は近年、これらに作用する化粧品原料の開発も進んでいるのです。

ストレッチマークは誰にできる? どんな傷

ストレッチマークというのは、日本語では妊娠線ということになりますが、実は妊婦に限らず、性別や年齢に関わりなく、誰にも発現の可能性がある皮膚症状です。急激な成長や短期間の体重増加にともなって、皮膚が引き伸ばされ、炎症を起こし、その後が生じる傷跡が、ストレッチマーク。たとえば思春期の成長、ボディビルディング、ストレス等による急激な肥満と、妊娠以外の原因もいろいろあるのです。

発症の当初は赤や紫の線ですが、徐々に色は薄れ、最後には青白い傷跡として定着します。傷跡部分は柔らかく窪むため、皮膚に凹凸ができ、外観を損なうことは否めません。

ただ、これまでは、ストレッチマークができないように予防する、あるいはできてしまったストレッチマークを

薄くしたり消したりすることは、非常に難しいと思われてきました。できてしまったら諦めるしかない皮膚症状だったわけです。

画期的な新原料の3つの主成分の作用

それが最近になって、このストレッチマークに対して効果を発揮する化粧品原料が開発されたのです。

その画期的な原料は、ビタミンの1種であるパンテノールと、パルミトイルトリペプチド-5という合成ペプチド、それにオーガニックのマルビウム・ブルガレ抽出物を組み合わせた水溶性混合物(以下、仮にPPMと表記)です。それぞれの成分は、皮膚にどんな作用をもたらすのでしょうか。

パンテノールは、皮膚の保湿・柔軟化のサポート、細胞の成長・組織修復の促進、炎症・発赤の抑制とい

った働きをします。

パルミトイルトリペプチド-5は、TGF-βを活性化することでコラーゲン産生を促進し、また細胞外マトリクスのダメージを修復し、さらに皮膚の引き締めといった作用もあります。

マルビウムは、和名をニガハッカと言ひ、アルプスのミントとも呼ばれている植物で、その抗炎症・治癒効果は古くから知られていました。PPMにおいてはオーガニックのマルビウム・ブルガレのエキスが用いられ、この成分は、皮膚を変質から守り、炎症を軽減させる作用を担っています。

急激な引き伸ばしから皮膚を保護し、修復も!

では、これら3つの成分からなるPPMは、実際にストレッチマークに対してどう働きかけるのでしょうか。

PPMは、皮膚の保護と修復という2

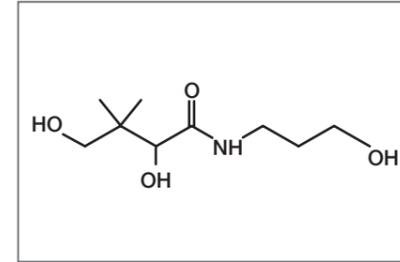


図2: パンテノールの化学式

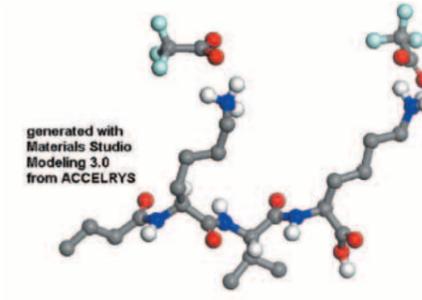


図3: パルミトイルトリペプチド-5の化学構造

つの効果を有しています。皮膚保護特性に関しては、新細胞培養法による単層線維芽細胞の引き伸ばし/保護シミュレーションにおいて、その有効性が確認されています。何の保護もなく引き伸ばされた線維芽細胞は、バラバラに引きちぎられ、その構造を破壊された状態になってしまいます。それに対してPPM(0.05%配合)で保護された線維芽細胞は、引き伸ばされても、その整った構造にほとんど乱れが生じません。

つまり、急激な強い引き伸ばしに際してPPMを用いていれば、皮膚細胞が保護されて、ストレッチマークができるのを防ぐ効果があるのです。

また、皮膚の修復に関しても、臨床試験により確かな効果が認められています。すでにできてしまったストレッチマークに、PPM(3%配合)を3か月間継続的に塗布する試験を行ったところ、ストレッチマークの長さにおいて平均13.5%、幅において平均22.2%の縮小がみられ、さらに真皮密度は29%増加、という結果が得られているのです。被験者による評価においても、約3割はストレッチマークの消失を、約9割はストレッチマークの色や幅、長さの減少を認めています。

白い傷跡として定着してしまったストレッチマークに対しては、効果が表れにくいものの、少なくとも赤味を帯びた状態の新しいストレッチマークの場合は、目に見えて外観が

改善されるだけの効果を有しているのです。

PPMには他にも、皮膚の保湿、張りやしなやかさ、滑らかさを与える作用があります。ストレッチマークの予防とトリートメントに限らず、広く傷痕の修復をサポートする化粧品の原料として、今後、期待できる原料と思われます。

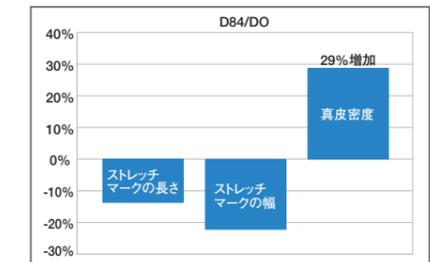


図4: PPMのストレッチマークに対する効果(3か月間の臨床試験結果)

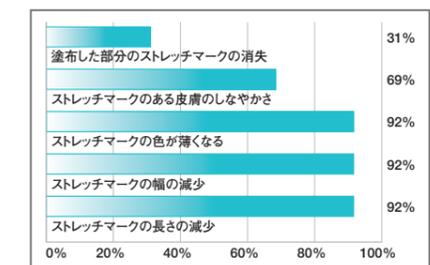


図5: 臨床試験被験者によるPPMに対する評価

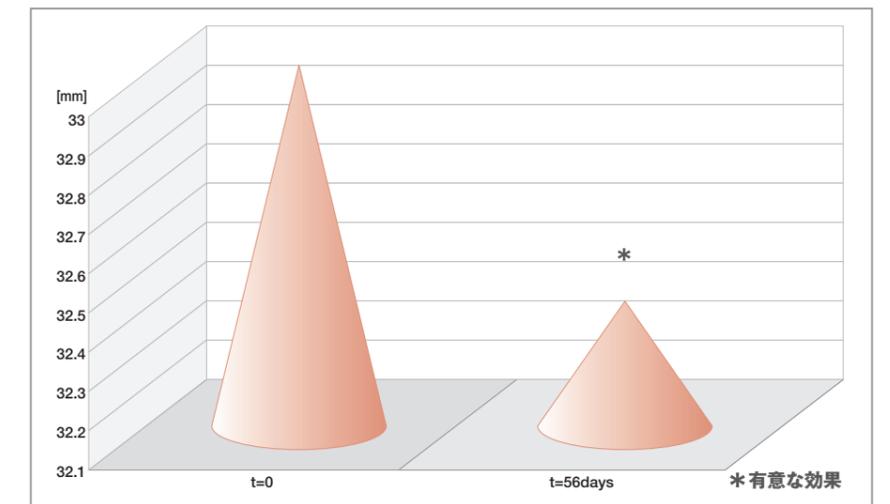


図6: LCCPPの脂肪組織に対する効果(2か月間の臨床試験結果)

